

## かかわりを大切にしたコミュニケーション活動の工夫

### 友だちとのかかわりを増やす実践例

#### 1 はじめに

外国語活動は子供たちにとって、とても楽しい時間となっている。それは他の教科と比べ、友達とコミュニケーションをはかることが活動の中心となっているからである。

一方で文法や単語に慣れていないと、伝えたくても自信がないため、消極的になってしまうことがある。そのため最初は、基本の文法や、単語を繰り返し練習し、自信をもたせるようにしたい。また、体を動かしながら反復練習をして覚えていけるようにしたい。その後は実物やシチュエーションを工夫し、コミュニケーションの場をつくっていく。実生活に沿って、子供の興味を引き出すようにしていきたい。

#### 2 実践 5年生「Lesson 5 友だちにインタビューしよう」

- ① 日本語と英語の音の違いに気付き、色や形の言い方を知る。
- ② ポインティングゲームやミッシングゲームをしながら、色や形の言い方に慣れ親しむ。
- ③ 好きなものは何かを尋ねる表現に慣れ親しむ。
- ④ 友達に何が好きか積極的に尋ねる。



#### 3 成果

友達に、好きなものを聞きたい、知りたい、という思いが子供たちから出るように、友だちにインタビューをする前には、必ず挨拶 (Hi, my name is ~. How are you? I'm fine.) を入れるように徹底した。そうすることで、文法や単語に慣れていない子や英語に対して消極的な子も、インタビューの前に慣れ親しんでいる挨拶の言葉を交わすことで、安心した気持ちで友達にインタビューすることができた。



好きなものの尋ね方に慣れてきた子供たちは、色以外にも、動物やスポーツなど、友達に聞きたいものを選び、インタビューすることができた。この時点で、友達の好きなものは何か知りたいという気持ちが強くなっているため、インタビュー前の挨拶も活発に行うことができ、スムーズにインタビューに入るすることができた。

#### 4 課題

子供たちは、簡単な挨拶は自分たちから自然に使えることができるようになった。挨拶の時間を増やすことで、リラックスでき、その後の活動もとても楽しそうに行っている姿が見られた。また、覚えたことを積極的に使い、インタビューすることができる子供が増えてきた。しかし、相手の言葉に反応 (good ok nice why など) を返しながらか話をすることはまだ難しいと感じている。今までに学習したことも使いながら、相手の言葉に反応して話していくことができるようにするために、どのような活動を取り入れていくとよいか、今後研修を深めていきたい。